

## 令和8年第5回 魚津市教育委員会会議録

### 1 開催日時及び場所

令和8年6月9日（火） 場所 第一分庁舎会議室  
午後4時01分～午後4時56分

### 2 出欠について

教育長 山 瀬 敬  
1 番 伊 東 潤一郎  
2 番 山 浦 春 美  
3 番 片 山 さゆり  
4 番 松 本 修 治

### 3 出席職員

|               |         |             |         |
|---------------|---------|-------------|---------|
| 事 務 局 長       | 田 中 明 子 | 事 務 局 次 長   | 寺 崎 修   |
| 事務局次長兼教育総務課長  | 村 崎 博   | 生涯学習・スポーツ課長 | 高 森 哲 也 |
| 兼学校給食センター所長   |         | こ ども 課 長    | 米 島 智 晴 |
| 図 書 館 長       | 小 林 幹 子 | 水 族 博 物 館 長 | 清 水 悟 史 |
| 埋 没 林 博 物 館 長 | 石 須 秀 知 | 総 務 係 長     | 谷 口 友 美 |
| 学 校 教 育 係 長   | 濱 田 剛 宏 | 生涯学習・文化係長   | 布 野 久美子 |
| 文化財保護係長       | 塩 田 明 弘 | ス ポ ー ツ 係 長 | 廣 川 哲 也 |

### 4 傍聴人 なし

### 5 会議の要旨

午後4時01分 山瀬教育長が開会を宣言する。

#### （1）会議録署名委員の指名について

1 番 伊東委員を指名した。

#### （2）前回会議録の承認

全員異議なく承認した。

#### （3）議案

議案第19号 魚津市社会教育委員（補欠委員）の委嘱について

布野生涯学習・文化係長から説明し、全員異議なく可決した。

議案第20号 魚津市旧小学校体育施設の開放に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

廣川スポーツ係長から説明し、全員異議なく可決した。

(4) 報告事項

- (1) 令和8年6月補正予算について

(5) その他

- (1) 国・県への令和9年度重点事業要望について  
(2) 不登校について  
(3) 英語活動について

議 案

【魚津市社会教育委員（補欠委員）の委嘱について】

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育長  | 社会教育委員会ではどのような提案や要望があったのか、特色があるものがあれば教えてもらえますか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 布野係長 | 直近で行いました会議では、「生涯学習の推進」と「文化の振興」という2つのテーマでグループに分かれて意見交換を行いました。例えば、「刀踊り」、「伝統芸能の継承の仕方について」、「各博物館事業の評価」、「市民文化祭のあり方」など、非常に幅広いご意見を頂戴しています。これらを施策に活かしているところでございます。                                                                                                                                                                                                             |
| 教育長  | <p>いくつか確認をしておきますが、社会教育とは、教育基本法に基づく学校教育と並ぶ教育であり、教育の非常に大きな柱であります。社会教育法を根拠とする教育制度で、非常に範疇が広く、学校における教育活動、特に教育課程を除く全てであると言った方がよいかと。対象は青少年或いは成人ということで、とても広い分野であり、やはり課題も多いですね。定期的に会合を開いていただき、それぞれの課題について委員からのご助言を受けることも大事だと思いますので、今後ともまたよろしくお願いいたします。</p> <p>このあと6月補正予算の説明もありますが、改めて見ると、小中学校の費用をあわせたものよりも社会教育の方が範疇が非常に広いため、費用も多くなっています。これからは社会教育についても、話題にしていく必要があると感じています。</p> |

【魚津市旧小学校体育施設の開放に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について】

|      |                                                                                                          |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 山浦委員 | 申請書や承認書はこれからも紙を使い続けるのですか。                                                                                |
| 廣川係長 | 市内の公共施設は、公共施設予約システムを介して、インターネット上で手続きを行っているため、実際の手続きはペーパーレスになっています。規則上で紙の様式を定めて、窓口での支払を希望されれば紙でも手続きしています。 |
| 教育長  | 山浦委員がおっしゃりたいのは、条例改正を機会に使用者にとって少しでも便利度高まる工夫も行えればいいのかということと思いますが、これについてはどうですか。                             |
| 廣川係長 | 地区施設に移管された後も、様式としては残ると思います。                                                                              |
| 山浦委員 | 減免の関係までということですか。                                                                                         |
| 廣川係長 | はい、減免の承認も同時に行いますが、規則上は様式を定める形となります。                                                                      |
| 山浦委員 | 「今ある紙は使える」と書いてあったのでそれは良いことだと思います。                                                                        |

## 報告事項

### 【令和8年度6月補正予算について】

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 片山委員 | 「星の杜小学校と溪洲国民小学校との姉妹校締結事業」、「星の杜小学校とにじいろこども園との幼保小接続事業」についてですが、星の杜小学校だけが対象となるのでしょうか。それとも、他の学校もあることから、このあと順番に他の学校をまわっていくのでしょうか。                                                                                                                                     |
| 田中局長 | まず、溪洲国民小学校と星の杜小学校との姉妹校締結については、溪洲国民小学校から申し出があったものです。昨年10月に溪洲国民小学校の校長が魚津市を訪問された際に星の杜小学校を見学され、非常に興味を持たれたことで、姉妹校締結に至りました。今後については計画は現在のところ白紙です。台湾の小中学校側から要望があれば都度検討することとしております。<br>次に、幼保小接続事業については、今年はモデルケースとしての試行段階です。今後、保育園・こども園と小学校低学年児童との交流の計画が上がってくるものと見込んでいます。 |
| 山浦委員 | 学校給食無償化相当額補助事業についてですが、少しでも通学してほしいという思いから給食を止めない保護者もいると思いますが、この補助事業は、ひと月単位で申請ができるのですか。                                                                                                                                                                           |
| 田中局長 | 一ヶ月丸々食べない場合にひと月単位で申請をしていただくことになります。月の途中からの一ヶ月ではなく、月の初日からの一ヶ月としています。                                                                                                                                                                                             |
| 山浦委員 | 申請するかしないかは、保護者の判断におまかせですか。                                                                                                                                                                                                                                      |
| 田中局長 | 保護者に判断していただきます。お休みが長引いていて、一ヶ月食べられないだろうと思われれば給食を止めていただくこともできます。                                                                                                                                                                                                  |
| 山浦委員 | 先に申請する必要があるのですか。それとも「一ヶ月食べなかったからあとになって申請する」というかたちなののでしょうか。                                                                                                                                                                                                      |
| 田中局長 | 年に2回、10月と3月に申請をしていただくタイミングを設けることにしていますので、実績を見て申請することになります。                                                                                                                                                                                                      |
| 教育長  | 欠席者の給食は、現在はどうのような対応をしていますか。                                                                                                                                                                                                                                     |
| 寺崎次長 | お休みが長引くような場合は、保護者に連絡をとり、給食を止めるかどうかを判断してもらっています。止めている間でも、学校に来ることができる場合もあり、その場合はお弁当を持参してもらおうようにしています。                                                                                                                                                             |
| 教育長  | いろいろと課題はありますが、少しでも保護者の負担を少なくするためにこのような提案をさせていただきました。                                                                                                                                                                                                            |

## その他

### 【不登校について】

|      |                                                                                                                                                                         |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 松本委員 | 不登校児童生徒の総人数でグラフが作られていますが、前までは小学校で言えば高学年の児童に不登校が多かったです。最近では、低学年からの不登校が多くなっていると聞きますが、今もそのような傾向が続いていますか。それを踏まえて魚津市では幼保小接続事業にも力を入れておられるのだと思っていました。魚津市での状況をわかる範囲で教えていただけますか。 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 加藤教育センター所長 | 不登校児童生徒に関わっているソーシャルワーカーやコーディネーターによると、昔に比べて低学年の不登校や校内すまいるの利用が増えていると聞いています。中には小学1年生もいて、学校の楽しさを知らないまま過ごしている子がいるということも課題であると思います。幼児教育と学校教育との円滑な接続も課題として取り上げられると思います。                                                                                                           |
| 松本委員       | 不登校の要因を突き詰めるのは非常に難しいと思いますが、魚津市としてどのような特徴、原因が多いのか、分析を引き続きできたら良いと思います。                                                                                                                                                                                                       |
| 教育長        | コーディネーターや学校から毎月報告いただく中で、個々の状況は把握できるのですが、それらを次の支援にどのように活かしていくかが今年は少し見えてくるのではないかと考えています。時々このような形で不登校についてご報告させていただき、学んでいきたいと思っています。また「校内すまいる」と「市のすまいる」の連携が魚津市の特色であり、これも活かしていけたらと思います。不登校、校内すまいるの取り組みは今年で3年目を迎えますが、これまでの取り組みについてまとめ、今後の取り組みについて明確にし、指導や組織体制の再構成を考えて行くべきだと思います。 |

#### 【英語活動について】

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 伊東委員 | 学校で英語を教えているのに、校舎内を見ても英語の表記がどこにも見当たらないことがとても不思議です。職員室やトイレなどの看板が英語になっていません。言葉は積み上げにより学んでいくもので、途中で落ちこぼれると次の段階には進めません。世界中で「表意文字」を使うのは日本と中国だけであり、それ以外の国はひらがなのような「表音文字」を使っています。「表意文字」を使うこの国には、「文字を書く」教育が存在します。ところが、アメリカやイギリスの語学学校では、文字を書くという授業は存在しません。日本の英語教育が遅れていくのは「文字で書くことが正しい」という日本の国語の教育と同じ考え方で進めているためです。 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### 【国・県への令和9年度重点事業要望について】

|      |                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------|
| 教育長  | 県知事へ要望をしたところ、県に力強い支援をいただき、専科教員の人数は変わっていませんが、県で初めて多人数の情緒障害学級にも加配がありました。 |
| 伊東委員 | 加配のための人員確保はできているのでしょうか。                                                |
| 教育長  | 学級数によって基礎定数は決まっていますが、県は基礎定数＋加配人数を含めて正規教員で充当することを想定していると思います。           |

議事が終了したので教育長が閉会を宣した。